

# CEAS/Sakai のトピック機能を利用した大人数教育での成績評価実践

A Practical study of Achievement Evaluation of Large Class Utilizing the function of Topic in CEAS/Sakai System

田中俊也  
関西大学

**概要:** 関西大学における CEAS/SakaiCLE 連携システムでの「トピック」機能を利用して、学生の学びのスタイルが浮き彫りにされる評価方法を考案・実践した事例を紹介する。SNS 機能の発展版として位置づけることのできるこのトピック機能は、授業直後にその時間での最も重要なテーマを「トピック」として学生に提示し、自由な書き込み・お互いの議論を引き出すことができる。その、週内での閲覧・投稿数と最終週までの積算数から、学生の授業の取り組みのスタイルを同定する方法を考案した。

キーワード: CEAS, トピック機能, 学びのスタイル, 評価

## はじめに

教職科目「教育方法・技術論」は、教員免許取得者の大部分が選択する教職専門科目の1つであり、筆者は長年、この2クラス(1クラス 150~300名)を担当している。この科目は、授業を問題解決活動ととらえて(Silber, 2007)その構造を分析すれば、目標状態(G)、使えるオペレータ(O)、オペレータの制約条件(R)などが多種多様に解釈できる、ill-defined な科目であると考えられる(田中ら, 2008)。したがって、授業で話したことの「記憶」の再生や用語の定義の再認などは、この教科では、成績を構成する「能力」一部ではあってもそれらが成績評価に直接結びつくとは考え難い。

ではどうするか、ということで、筆者は、長い間、学生の、授業への取り組みの態度とその成果を評定し、成績評価の一部に使ってきた。従来は、毎時間の終わり 10 分程度を使って、その日の講義内容で特に重要なことから「ショートレポート」と称して授業時間内に書かせ、回収して、SA に預けて学籍順にソートし、出席の確認を兼ねて出席表に入力をしてもらい、一方で筆者はそのショートレポートを読み、取り組みの特に優れたものを次の授業の冒頭に紹介することを繰り返してきた。

しかしながら、この方法では、学生は常に「教師」を意識してレポートを書き、教員は個人的に「気になる」ものをピックアップして紹介するにとどまり、授業の内容がそれで発展することはなかなかみられなかった。

2008 年度より CEAS/Sakai にトピック機能が実装されたことにより、従来のショートレポートをこの機能の利用に置き換え、その教育的効果の検証をすることとした。

ここでのトピック機能には以下のようなものがある。

1. 閲覧; 他者の書いた投稿を閲覧する。
2. 投稿; 授業設計者がたてた新たなトピックの議題に対して議論を展開したり、他者の投稿に対する意見を述べたりする。
3. スレッド設定; トピックの議題から逸脱しない範囲内で、各自が新たな話題(スレッド)を立て、閲覧者の投稿を誘う。

以上の機能により、学生は、授業設計者が授業直後に立てたトピックの話題に対して意見を述べ、それを読んだ別の学生がそこに感想や意見を述べ、1つの議題が学生によってどんどん展開していく構造が想定された。機転の利く学生は、「ところで」といった形で、新たなスレッドを設定し、議論を新しい方向に導くこともあり得る。

授業の開始の段階で成績評価の話をし、このトピックへの参加の熱心さが授業の取り組みの熱心さを示していることを告げ、活発な議論を期待すること、1週間でトピックの話題は切り替わるが、過去のトピックの話題に参加することもできることを告げていた。

学生側の授業への取り組みとしては、1週間内に、たてられたトピックへの投稿・閲覧を繰り返し、内容的にも議論がどんどん発展していくことが理想的な姿として想定された。

しかしながら、過去のトピックへのアクセス・投稿も認めていることから、ある時期から、これまでまったく・あるいはほとんど参加しなかったことを悔やんで閲覧や投稿をまとめて行う一種「帳尻あわせ」的なことを平然と行う学生も想定され、前記の理想的な学びの姿を示す者と後者のような、「成績」を意識して帳尻合わせをする者との区別をつける必要もある。その点を特に工夫することとした。

## 方法

1. 対象とした授業: 2009 年度教職科目「教育方法・技術論」(秋学期2単位)2クラス(木曜2限(1組)、3限(2組))
2. 対象学生(受講登録数): 1組 194名 2組 270名
3. 成績評価方法とその告知: シラバスにて平常点での評価とすることを明記し、授業の初回をはじめ毎回、CEAS/Sakaiでのトピックへの参加を授業取り組みの熱心さ(コミットメントの強さ)とみなすことを公言した。また、基本的にその週のうちに参加すること、万一参加できない場合は週を超えてからでも可能であることを伝えた。
4. 評価の観点  
(1)コミットメント得点; 週内の閲覧の件数と投稿の件数。  
(2)帳尻あわせ得点; 最終日までの機械的積算データ(閲覧、投稿それぞれ)と、1週ごとに締めを行ってそれを積算したデータとの差。例えば、毎週の閲覧の合計が120であったのに、最終の積算の値が145であった場合、そのつどの週の閲覧に加えてあとから色々なトピックに計25の閲覧をしたことになる。それを示したもの。
5. 学びの型(スタイル)の同定方法  
週内の閲覧、投稿(Commitment account)(Browsing;Cb) Posting;Cp); 週を超えてあとから帳尻あわせ的に閲覧、投稿をしたそれぞれの数(Falsifying account (Browsing;Fb) Posting;Fp))について、それぞれの平均、標準偏差を算出し、平均より高いものをH、低いものをLとし、Cb,Cp,Fb,Fpにつ

いてHHHHからLLLLまでの16パターン(理論値)を析出し、これを学びのスタイル、とした。その際、最終集計回までに一切 CEAS/Sakai にアクセスのなかった実質的な履修取り消し者(1組25名、2組30名)は分母から除外した。

## 6. 学びのスタイルの持つ意味

表1は、上の学びのスタイルの意味についてまとめたものである。

表1 学びのスタイルの意味

学びのスタイル	型
強いコミット(典型)	HHLL
強いコミット(過去閲覧型)	HHHL
強いコミット(過去書き込み型)	HHLH
強いコミット(過去閲覧・書き込み型)	HHHH
書き込み優先(典型)	LHLL
書き込み優先(過去閲覧型)	LHHL
書き込み優先(過去書き込み型)	LHLH
書き込み優先(過去閲覧・書き込み型)	LHHH
傍観(典型)	HLLL
傍観過去閲覧型	HLHL
傍観過去書き込み型	HLLH
傍観帳尻あわせ型	HLHH
帳尻あわせ(典型)	LLHH
帳尻あわせ(過去閲覧型)	LLHL
帳尻あわせ(過去書き込み型)	LLLH
不参加型	LLLL

## 結果

### 1. トピックと投稿数

2009年度の、授業後に投げかけた問いかけと、それへの投稿数は表2の通りである。

表2 トピック(スレッド)と投稿数

No. トピック(「」内は問いかけのスレッド)	1組	2組
1 あそびとまなびについて		
「遊びは遊び、学習は勉強、か？」	117	177
2 トラックモデルについて		
「高品質な領収証をどうやってみようか」	90	173
「100点は何を示すのか」	71	137
3 2人のカリスマ教師について		
「『できる』ことを重視する2人の教師について語ろう」	104	176
4 リーダーシップを考える		
「PM理論の実際の例を考えよう」	104	204
5 アメリカの教育・日本の教育		
「アイデンティティ形成と学びVs学習」	114	213
6 経験から学ぶ、とは？		
「経験と『知識』の関係は？」	123	204
7 2種類の知識はどうやって獲得するか		
「宣言的知識と手続き的知識」	84	160
8 表象のレベルの移行と「分かる」こと		
「授業で『納得する』とは？」	90	218
9 学校でのコンピュータ利用の印象		
「小・中・高と、学校でのコンピュータの扱いをどう感じたか？」	111	259

### 2. 学びのスタイル

上述の方法で2つのクラスについて学びのスタイルの結果をまとめたのが表3である。

表3 学びのスタイルの出現頻度

学びのスタイル	型	人数	%
帳尻あわせ(典型)	LLHH	65	15.9
強いコミット(典型)	HHLL	51	12.5
強いコミット(過去閲覧・書き込み型)	HHHH	37	9.0
強いコミット(過去閲覧型)	HHHL	29	7.1
帳尻あわせ(過去閲覧型)	LLHL	23	5.6
傍観帳尻あわせ型	HLHH	21	5.1
帳尻あわせ(過去書き込み型)	LLLH	17	4.2
傍観(典型)	HLLL	15	3.7
強いコミット(過去書き込み型)	HHLH	12	2.9
傍観過去閲覧型	HLHL	11	2.7
書き込み優先(過去閲覧・書き込み型)	LHHH	6	1.5
書き込み優先(典型)	LHLL	5	1.2
傍観過去書き込み型	HLLH	4	1.0
書き込み優先(過去閲覧型)	LHHL	3	0.7
書き込み優先(過去書き込み型)	LHLH	1	0.2
不参加型	LLLL	109	26.7

残念なことに、最も多いのは不参加型で約30%、それに典型的な帳尻あわせ型が16%いる。しかしながら一方で授業への強いコミットメントを示すものも約30%存在する。2 極化、3 類型化がみとれる。

### 3. 学びのスタイルと最終評価の関係

成績の評価は、トピックの内容評価点、ここでのコミットメント得点、帳尻あわせ得点、抜き打ちの出席・ショートレポート得点、それに最終日のロングレポート点を総合的に評価して行われた。今回の学びのスタイルと最終評価の関係を示したのが表4である。

表4 学びのスタイルと最終成績評価(一部)

学びのスタイル	平均	標準偏差
強いコミット(過去閲覧型)	89.8	6.62
強いコミット(過去閲覧・書き込み型)	89.0	6.32
強いコミット(典型)	85.7	8.31
強いコミット(過去書き込み型)	85.7	5.78
:	:	:
傍観帳尻あわせ型	83.0	3.37
:	:	:
帳尻あわせ(典型)	78.1	7.14
:	:	:
帳尻あわせ(過去閲覧型)	71.7	5.38
:	:	:
不参加型	66.2	5.42

ここから、成績上位4グループは基本的に毎週の授業に対して強いコミットをしている者たちであり、帳尻あわせのグループは総じて低めの評価しか得られてないことがわかる。

CEAS/Sakai のトピック機能を用いて、学生自身の学び方のスタイルを同定することが可能となる。

## 文献

- Silber, K.H. (2007). A Principle-Based Model of Instructional Design: A new way of thinking about and teaching ID. *Educational Technology*, 47(5), 5-19.
- 田中俊也・岩崎千品・齊尾恭子 (2008). 教員の持つ教科認識、教え・学びの哲学と ICT 活用形態の関係 私立大学情報教育協会平成20年度教育改革IT戦略大会発表論文集, 70-71.